五明地区タウンミーティング(要約)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２５年１２月１４日（土曜日）

【市長】　皆様こんにちは。今日は休日でおくつろぎの方も多かったかと思うんですが、このように多数の方がお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。大変お忙しい中、このタウンミーティングの受け入れをご快諾いただきました五明地区まちづくり協議会の会長さんをはじめ役員の皆様にはご協力をいただきまして本当にありがとうございました。さて、このタウンミーティングですが私の公約の１番に掲げているものでございまして、それは市役所で待っていたのではいけないだろうと。松山市は旧松山市、旧北条市、旧中島町あわせて４１地区に分かれます。それぞれの地区で魅力があったりお困りの点があったり課題の点があるでしょうから私どもが出向かせていただいて、聞かせていただいたほうがいいんじゃないかと思っておりましたので、公約の１番に掲げておりました。この五明は大変思い入れのある場所でございまして、それはタウンミーティングの１回目を開催させていただきました。私が就任させていただいてから１カ月半のときにタウンミーティングの１回目をさせていただきました。おかげさまでタウンミーティング２巡目に入っておりまして、今２巡目の１４地区目で今日が延べでいいますと５５地区目になります。松山市版のタウンミーティングはガス抜きとかのためにやっているのではありません。ガス抜きとかパフォーマンスでやっていたら１巡で終わっていたと思うんですけども、やはりできるだけ皆様の声をお聞かせいただいて、そしてできることから市政に反映したい思いでやっておりますので今２巡目に入っているところです。五明地区も２回目やってきたわけでございます。そしてこのタウンミーティングですけども、聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにしないタウンミーティングが松山市版のタウンミーティングでございます。１巡もそうでしたけれども２回目の今回も必ずこの場でお答えできることはこの場でお答えをいたしますが、中には財政的な問題があるものとか国と絡むもの県と絡むもの、こういったものはいったん持ち帰らせていただくことがございます。いったん持ち帰らせていただいたものも必ず１カ月を目途に五明の方に答えをお返しいたしますので聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないタウンミーティングでございます。今日は最前列に可愛い女のお子さんが来られておりますので、９０分です。やっぱり肩ひじ張って緊張するとしんどくなりますので、あまり肩ひじ張らずにざっくばらんに五明地区のさまざまなことについて教えていただいて前向きな話ができればと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【男性】　区長会長をしております。お世話になります。五明小学校の件のご説明していただきましたが、バスで１２名の子どもたちが元気に通ってきていただいております。この１２名の子どもたちも元気に学校生活に慣れて、地域の子どもたちとのコミュニケーションもうまくとれとるんではないかと思うんですが、バスが１２名ということで、今私たちが心配していることは、１２名以上になった場合に五明小学校で学びたいのに学べなくなる子どもがおるのではないかと我々は心配をしております。もし

１３名とか１４名になった場合にお力を借りて何か策を考えていただいたらと思っております。よろしくお願いします。

【生涯学習政策課長】　教育委員会生涯学習政策課の津田と申します。ご質問ありがとうございます。今のお話はどんぐり号といわれているバスだと思うんですけれども、ご承知のとおり今現在１２名のお子様が利用されています。現在我々が把握しておりますのは、来年度から１３名になるやに聞いております。このバスは定員が１４名になっておりまして、来年度に関しましては十分に対応できようかと思うんですけれども、今後お子様の数の推移とか、弾力化により希望も募っておりますので、来年度以降また応募をかけるんですけれども、数が増えるようでありましたら、改めてその分検討する形で今考えておるところです。来年度は間違いないと思います。

【男性】　今バスの件でお答えいただいたんですけども、１４名というお返事をもらったんですけれども、バスは運転手も含め１５人乗りになっているということでよろしいでしょうか。運転手さんが乗れば残り１４名という解釈ですか。

【生涯学習政策課長】　はい。

【男性】　はい、わかりました。やはり１番前の席は、安全性の問題で少し不安を感じる面もあることも少しお含みおき願ったらと言うとこうと思いまして、お願いではない一応現状として発言を少しさせてもらいました。私としても市内全域から通ってこられるご家庭の保護者の皆様及び学校も地域も安全にして安心して子どもたちが登下校できることをやっぱり大事にしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。以上です。

【生涯学習政策課長】　ご意見預からせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【中学生】　旭中学校生です。学校の帰り道に街灯が少ないと思うので、街灯を取りつけてほしいんですけど。どうでしょうか。

【市民部長】　市民部の吉野です。よろしくお願いいたします。ご質問ありがとうございます。道が暗くて街灯ということであれば、私どもで防犯灯を新設しています。それから器具の取りかえとか蛍光灯が切れたときの管の取りかえをしています。ただこれは、防犯協会を通じてやっておるんですけども、あくまで設置だけでして、あとの維持管理とか電気代は地元にお願いしているということがありまして、どうしても地元負担でかかりますので、地元の町内会長さん等から申請を上げていただく。このあたりにつけたいんだとまず相談していただいたらと思うんですけど、できたらご家庭の方か学校の先生に相談して、町内会長さんにこのあたりが暗いんでつけてもらうように相談してもらえんじゃろうかいうて言ってもらったらいいんじゃないかと思います。よろしくお願いします。

【市長】　多分、同級生の人もここに防犯灯があったらいいなと思ってる人いると思うんですよ。学校の友達に聞いてもらうのもいいし、また家庭でそういうお話してもらうのもいいし。新しく設置するときの受付は、４月、７月、１０月、１月の年４回やっているそうです。ですから一番早かったら１月にその時期が来るかもしれませんね。支所で受付もしているので、またお話をしてみてください。部長、防犯灯のことですけども、管理は地元だというお話がありましたが、市役所がしてくれたらええのに何で地元で管理せないかんのぞっていう声に対してはどういう説明になりますか。

【市民部長】　「自らのまちは、自らで守る」という自主防犯の感覚といいますか気持ちですね。実はもう一つありまして、防犯灯は市内に３万灯あります。大体電気代が年間で１灯あたり２千円から４千円前後かかりますので、それをということになりますと、大変な負担にもなりますし、それから最初に返りますけど、自分たちのまちは自分たちで守るという自主防犯の感覚で扱っていただいたらと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【市長】　電灯が切れた場合に地元で管理していただいていると気づきやすいですよね。松山市が全部扱えたらいいんですけども、市内に３万灯ありますので、やはり地元に管理をお願いしたほうが、「ここ球が切れてるよ、かえないと」っていうのができますので、地元で管理はお願いできればと今そのような経緯でやっているところでございます。

【男性】　防災無線の件でお力を借りたいと思っています。危機管理担当部からの説明で本庁から集落ということで説明を受けたんですが、五明地域としては五つの集落があります。菅沢、神次郎、城山、恩地、柳谷とあるわけですが、その集落から集落の連絡をもしよかったら気にとめていただいて、できる体制をとっていただいたらと思っております。災害が起きた場合に、本庁に言うて本庁から行く、それじゃなくて何かないかということを集落にこう連絡ができるような。

【消防局総務課長】　消防局総務課の中矢でございます。ご質問ありがとうございます。今松山市もデジタル防災行政無線の整備を行っております。この五明地区も間もなく整備を開始するものと思われますけれども、各地域に整備の際にもうすでにお願いに行っていると思うんですけれども、今のところ４カ所予定しております。菅沢分館、城山柳谷ポンプ蔵置所、それと元の柳谷のポンプ蔵置所の跡地、神次郎ポンプ蔵置所の４カ所を予定しております。この４カ所で現在ほぼ同じ場所に設置するんですけれども、性能も向上しますし、さまざまな機能も付加されておりますので、伝達範囲も今現状よりかは広がるものと考えております。それとご質問の地域、集落から集落へという話でございますけれども、実は防災行政無線は中継局がございまして、中継局が行道山と中島の泰ノ山の２局を中継する形になっております。その中継局から電波を飛ばして受信する仕組みになっておりますので、その子局間同士の通話は、また総合通信局等との協議も必要になろうかと思いますけれども、私から危機管理担当部に伝えまして、整備が完了した後にそのあたりも検討していくようになろうかと思いますので、ご理解いただいたらと思います。

【市長】　今、防災のことで質問が出ました。私から皆さんにお願いがあります。皆さんのお家には平成２３年３月に防災マップが全戸配布、皆さんのお家に必ず届いています。五明は５８ページに載っています。どこが避難場所とかそういったことが書かれています。この防災マップが配られた後にあの東日本大震災が起こってしまったのですが、だからといってこれが全然使えないようになったわけではありません。ですので、どうぞ皆様方にはこの防災マップをぜひともご覧いただけたらと思います。どういうものを災害用として持っておいたらいいのか準備しておいたらいいのか、そういうものがこの中に全部書かれてあります。実はこの防災マップはものすごくいろいろと相談してつくったもので、愛媛大学に防災センターといったものがありまして、矢田部先生という防災の権威の方がいらっしゃいます。その矢田部先生ともいろいろとお話をしながら、例えば目立つので蛍光色をつけてるんですけども、あまり派手かましい色をつけると目の不自由な方からすると逆に見にくいんだそうです。そういう色のつけ方まで配慮してつくった防災マップ、ほんとに入魂のものですので、ぜひともご活用いただいたらと思います。ちなみに防災マップを１枚あけると、松山市民にとったアンケートが出ています。松山市内、何らかの災害に遭遇すると思っている人は７５％、つまりおよそ８割の人が何らかの災害に遭遇するだろうと思っているんですが、逆に地震に備えて家具の固定をしている人はわずか１９％、２割しかいないんです。８割の人が何らかの災害に遭遇するだろうと思ってるんだけども、家具の固定をしている人は２割しかいないんですね。私、今年８月に防災士の試験を受けさせていただいて、防災士の資格を取らせていただきました。この資格の中で勉強したことですけど、大きな地震がきた際に、タンス家具はものすごくやっぱり重いですから地震で揺られるとその家具につぶされてしまう。家具が飛んでくることを考えると、やはり家具固定は非常に大事なことなので、２割の方しか家具固定をしていないという状況がありますので、ぜひともしっかりと備える。災害に対しては正しく恐れるということが大事です。例え話ですけれども、海で泳いでいて足がつかないと不安ですよね。でも足がつくと安心できますよね。やはり津波に対しても正しく恐れるということが大事です。標高表示板といいまして、ここは何メートルですよっていうのを沿岸部で地元の方と一緒になってやっているわけですけども、やっぱり正しく恐れるということが大事でありますので、正しく恐れてそしてしっかりと準備をしていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】　五明猟友会です。お世話になっております。イノシシにつきましては結構捕獲状態が進んでおりまして、五明での生息数は大幅に減ったと思います。それで一つ困ったことですが、鹿が今年はようけおりまして鹿の被害、２０頭余りは捕獲したんですが、来年度あたりも今年以上に被害が出る恐れがあります。カラス、それから鹿も助成金の対象に加えていただくことをお願いします。以上です、よろしくお願いします。

【市長】　サルはいかがですか。五明地区ではなかったかと思うんですが、今高級柑橘で、すごく人気が高まっている紅まどんなですけれども、ハウスで栽培をされる方もいらっしゃるんですが、路地で栽培をされる方もいらっしゃいます。袋掛けをしてつくるわけですけれども、ほんとにおいしくなってきたところでサルにやられてしまうという例も聞いてはおるんですが、五明ではどんなですか、サルは。

【男性】　サルは今年捕獲したのは２頭だけなんです。なかなか賢くて捕獲できない状況で、それで被害が太秋（たいしゅう）、品種のね、柿ですけれど、これが一夜のうちにして３ヘクタールぐらい何にもなくなったという被害が出とります。サルは今おるからすぐ来てくれいうて銃持っていくんですけど、行ったらもう跡形もない状態でなかなか捕獲は難しいです。

【都市ブランド戦略課長】　産業経済部都市ブランド戦略課長の矢野でございます。よろしくお願いいたします。先ほどおっしゃられたように鹿の被害が大きくなってきてると。鹿についても補助の対象にならないか。おっしゃるようにイノシシは今２万円、それからサルは３万円報償費ですけれども、鹿、カラスの被害がご当地ならずともほかの地域で出始めているのは私どもとしても十分認識をしています。鹿についても対象とできるかどうか検討をしていますので、しかるべきときにご報告をさせていただければと思います。サルについてはすごく賢く捕獲しにくい、今までの対策だけでいいのか、いろいろ検討していますのでご理解をいただければと思います。よろしくお願いします。

【市長】　サル対策ですが、さまざま検討しておりまして、検討中ですけどモンキードッグという存在がいます。サルがまちに降りてこない、集落に降りてこないために犬で防ごうっていうものですけど、これ難しいところが、やっぱり訓練しないといけないんですよね。訓練の期間がいると。飼い主さんの言うことを聞くので飼い主さんと一緒に訓練機関に行かないといけない。訓練機関が愛媛に今現状ないです。でもモンキードッグを活用できれば集落に降りてくるのを防ぐことはできると。サルもはぐれザル、オスザルが一匹のケースとメスザルを中心とした集団のケースと二通りあるんですね。モンキードッグで追いやると、ほかの地区に移るだけという話もあって、モンキードッグをやるとしたらどれぐらい経費が要ってどれぐらい期間が要って、誰がやってくれるのかも含めて今検討しているところです。私自身が実家で農業経験がありますし、前の仕事で２０年、現地現場に行かせていただいて農業の場面も見せていただき、皆さんの苦労と工夫は知っていますので、最後の最後で収穫手前のものをやられるのは非常につらいと思います。何かできる方策はないか常に考えていきたいと思います。

【男性】　１０年前ぐらいにこちらに帰ってきたんですけど、ほんとに単純な疑問です。石手川ダムがありますよね。その上流に処理場とかつくっているんですけど、ダムなんかやったら市民が飲む飲み水ですから、どうしてそういうのが上流にできるのか、それが通るたびに不安なんですよ。知らない山のほうに処理場の車が上がって行ったりしてるんですよね。ここの上にあったんかなって思ったりするところに。何回もそういうこと出合ったりするんで、それが不安な要素なんですけど。

【市長】　わかりました。今日、勉強のために環境政策課長が来ておりますので、専門家が何らかお答えできることがあれば、難しければいったん持ち帰らせていただいて、きちっとしたご説明ができればと思うんですが。これまでの経緯ですよね。どうしてそういうふうになっているのか。

【環境政策課長】　失礼します。環境政策課の大西です。石手川のダムの処分場、どのあたりのことですかね。

【男性】　神次郎からちょっと下がったところへん。

【環境政策課長】　また、その場所を教えていただいたらと思うんですけど、処分場の許可については、ちゃんとした書類を出していただきまして、それでいろいろ検討させていただいて許可を出しております。ですので、今おっしゃられたところの場所を教えていただいて、再度持ち帰らせていただいて状況をご報告させていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

【男性】　失礼します。五明地区のまちづくりを担当しております。よろしくお願いいたします。今日はまた市長さんはじめ関係者の方々、寒い中ありがとうございます。今日このタウンミーティングということでお話をいろいろ考えておりましたんですけど、なかなか皆さんのご意見ももうひとつかなということもありますし、それに我々このまちづくりを今現在進行中ですけど約８０パーセントぐらいの成功率かなと感じております。

１００パーセント行きたいと思っているんですけど、なかなか色んな事情もございまして今言うようにイノシシの問題とか水質の問題とかいろいろあると思うんですけど、この中でまちづくりもこれの一部に加わって、これからの皆さんとの行政との中で話をしながら一つずつ進めていきたいと考えております。それからこのテーマとは外れるんですけど今、五明地区皆さんは見られてわかるようにこういう過疎化になった田舎なもんで、これをどういうふうにまちづくりとして発展させていくかを、いろいろ役員ともまた住民の方々と一緒に話はしておるんですけど、なかなか前進が難しいということも一つはあります。その中で何をしたらこの五明地区の発展のためそして五明の活性化のためにはどうしたらいいかは、まず一口でいえば人口を増やす、または子どもさんを増やすということも考えられますので、先ほども学校の話は出ましたが学校の校長先生とお話するとどうも存続ができればいいじゃないかというとこもあるんですけど、我々としては存続だけでは普通、当たり前のことでそれ以上の子どもを増やしその子どもさんの父兄さんも増やすという人口を一人でも増やしていく考え方で取り組んでおるわけで、存続だけで止めてしまうのもいかがなものかなと我々はそう思っております。それともう一つは、まちの人に五明に来てくれと言っても受け皿が一つもできてない、一人の人が家を建てたい、ここに住みたいと言うても住むとこがない、家がない、もちろん建てる場所もないと。そういう状況で来い言うてもなかなかどこへそれなら家を建てるんか、住むんかとなると、結構難しいとこもございます。だから一昨年アパートを建ててくれとお話したと思うんですけど、そういう面も含めて空地に何か建ててもらってせめて１０世帯ぐらいは入れるものができないかと、我々もいろいろ地区の人に聞けばこの五明に住みたい、子どもと一緒に住みたいという話は何カ所も聞いておりますので希望者が今現在何人もおるということではございます。だけど今言った状況で受け皿がないことが一番の五明地区の欠陥ではなかろうかと考えております。またその辺を検討をしていただければと重ねてお願いしたいと思います。

【都市政策課長】　都市整備部都市政策課の松本と申します。ご意見ありがとうございます。まず先ほど言いましたように市営住宅を新たに建てるのはなかなか難しいんですけど、現在松山市内の全域の中で空き家が増えている課題もございます。五明地区でどうかというとこもあるかと思うんですけれども、そういった空き家の利用活用や、あるいは土地の有効利用で、どういった土地が現在空いてて利用ができるかについては、民間事業者の方も協力いただいて今後どういうふうに松山市として空き家対策を講じていくかは現在検討中でございます。そういったところも含めて、住宅を建てるところは検討をしているところですけれども、それじゃあこちらに住まわって雇用、生活、どうしていくかというところもありますので別の観点から。  
【都市ブランド戦略課長】　都市ブランド戦略課でございます。おっしゃっていただいたように過疎化の問題、人口をいかに増やしていくかは非常に大きな課題だと考えています。そしてこれは残念ながら松山市の中でも、ご当地だけでなくて例えば合併をいたしました中島地域それから久谷とか北条とかいろいろな地域がこういった課題を抱えてございます。おっしゃられるように住宅の整備を行政が全般的に構えれることができればいいんでしょうけれども、やはりさまざまな地域で同様の悩みがございます。ですのでそういったこともぜひご理解をいただく中で、例えば中島地域などでは、すでに地域の方々がIターンで帰ってらっしゃった方がお友達を「ここいいとこだよ、住んでみないか」ってお誘いをされたり、そして行政に頼るよりは自分たちがそういう仲間の中で声をかけあっていくほうが長続きする、どんどん発展もしていくんじゃないかというお言葉もいただいたこともございまして、そうした取り組みを私どもとしては見守らせていただくと同時に、そんな中で何か今後お力添えできることがあれば検討していきたいと考えているところでございますので何とぞご理解をいただければと思います。

【市長】　私から追加をさせていただくと、前回のタウンミーティングでこのご意見いただいてから、ずっとさまざま検討させていただいているところです。難しいのが市が今、市営住宅は基本的にはもうあまり建てないと。今あるものを有効活用するという状況の中でさせていただいております。というのがやっぱり財政的な問題。国が今１千兆円の借金を抱えています。国から仕送りと一緒で地方に地方交付税交付金とか国庫支出金っていう形で地方にお金が回ってくるんですけども、親元がそれだけの大きな借金を抱えていますから、これから地方への仕送りが増えるとはとても考えにくいんですね。そういう中で何をしなくちゃいけないかはよく考えてやっていかないといけない。昔、箱物行政、高度経済成長のときだったらそういったことができたのかもしれないし、それがニーズに合ってたのかもしれないですけども、これからは少子化ですから働いて税金を払ってくれる人がこれから少なくなっていくことが予想されます。そういう中で私もこうやって要望をしていただいて、「わかりました、これやりましょう、あれやりましょう、それもやりましょう」って言えたほうが僕も人間ですから楽なんですけども、それを「いいですよ、わかりました」って何でもやっちゃうとそれは将来の子どもや孫にツケを残してしまうことになるんですね。ですので、皆さんの声に耳を傾けさせていただいて、後手にならんために今何をすべきなのかを聞かせていただきたいなっていうことでタウンミーティングを重ねさせていただいております。行政が難しいのはいったん建てたらまず建てるお金が要ります。そしてそれを持ち続ける維持管理していくお金が毎年要るんですよね。行政がやることですからいったんつくっといて止めたはなかなか言えないんです。行政はなかなか動かんなって言われてしまうのかもしれませんけども、もちろんできることから早くやろうと思っているんですけども、中にはやっぱりしっかりと計画を立ててニーズ調査をしてやらなくっちゃいけないところがあるので時間がかかる部分はどうしてもあるかと思います。でも、できるだけ早くしていこうとは思っているんですがそんな状態です。私が逆にお伺いしたいのは、例えば新築で建てちゃうとお金はたくさんいるんですけども、空き家を有効活用することができないかと皆様には問いかけたいんです。確かに聞きます。前回のタウンミーティングでもこの五明からは松山市内は２０分ですかね。車で行けるんで近いというお話を聞きます。盆踊り来させていただいたら、つながりもあるし星もきれいだしほんとに素敵な場所だと思います。若い人が住みたいと思うのもわかります。そこで空き家を活用することができたら、まだ話は違ってくるのかなあ。また、民間で絶対ここ五明に住むのが明らかにニーズがわかっていれば民間が建てると思うんですけども、残念ながらそういう動きはないんですよね。ですから行政が建てるのか、行政と民間が共同で建てるのか、民間が建てるのかっていうそういう方策もあるかと思います。これは市長、投資じゃないか。五明に投資してくれ、それで若い人を増やしたいんだっていうその考え方もあると思います。そういうことでしたら五明の方がまとまっていただいて例えば要望書を提出していただくとか、そういう要望書を提出していただいても申しわけない、財政的にできないってなってしまうかもしれませんけども、やはりそのような意見交換をしながらどうやったら五明がよりよくなるのか。そのためには行政が何ができるのか、皆さんには何をしていただくことができるのか、そういう意見交換ができればと思いますので、せっかくまちづくり協議会ができていますので、皆さんと連携しながらやっていければと思います。よろしくお願いします。

【男性】　私は住宅を建てるより前に宅地造成をしてもろたらええと思うんです。というのは私は神戸の３千戸の住宅を建てるところに行っとったんですが、そこは山で２５町歩もあるんです。そこらは市がやりよるんじゃない、企業がやりよるんです。できたところへはみんなが宅地を買って家を建てるんですね。そこへ木を切りに行ったんですけれども私らは木を切る、耕地の人は私らが切った木を下ろして谷へ埋めてその上へ大きな石を入れてまた小さい砂利を１メーターほど入れてその上へ造成していくんですが、大型ダンプの５台ぐらいが１台の機械なんです。それでやっていったらダンプの荷台に積むように泥が上がるんですね。それを回りもって降ろしていく。それを３台でやるんですよ。人間の手でスコップでしよるんじゃないんです。そして造成したところが３千戸で向かいが２千戸で、お水が琵琶湖から来るんじゃ言よりました。そのようにしていけば家は個人で建てるんですね。そこらは昔地震で地下がりしたとこらしいんですよ。断崖がありましたかね。上から下を見ると神戸のまちが見えるんです。それが断崖の絶壁からずっとあるんですからこれは普通じゃない。昔も大地震で下がったとこじゃと言うたんですが私らがやってから１７年たってあの阪神の大地震があったんです。谷には２５町歩もあるところに水が一滴もありませんでした。そして池は普通のとこは谷にあるんですけど山の中腹に池がある。山の峰にある。お茶沸かすいうても峰に汲みに行かないかんのですが。そういうとこですが、企業を利用して五明には１万戸でも建つ土地がなんぼでもあるんですから、そこへ建ててもらったらええんじゃないかと思います。松山市も過去に２回水害でやられとります。北条市も正岡のとこまで津波が来たいわれがありますので安全なところではないんですから、やはり五明のような安全な地帯へ宅地造成をしてそこへ移住してきてもらったらいいんじゃないかと思います。川内町が伊予鉄が造成したとこが、地元の人はこんなとこへ宅地つくっても誰が来るか言よったんですが１番に来たのは東京の人です。その人が言いますのに東京で退職金が４千万円だそうです。家建てようと思ったら土地買うたら済んでしまうんで、川内に来て建てたら２千万円で土地込みの家が建つんで来とりました。品川の人でしたが。そこで私も入らせてくれいうて家入らせてもらったらキッチンだけでも１０畳ぐらいあるんです。それが総檜づくり。東京じゃったら１億円かかるいうんです。それが２千万で土地込みで手に入るから東京からどんどん来たら地元の人が下の農家まで入って住んでおります。そうなるんですから松山市も安全な地区じゃないんで２回水害でやられとるんです。その水害でやられたときに住むところがないんで五明の恩地まで来てお堂の床下へまで人が住んどったことがありますので造成してください。

【都市政策課長】　都市政策課の松本です。松山市内でいうと白水台とか湯の山に大規模な住宅が建っているところがあります。以前はそういうことが可能だったんですが、現在はできないことになっていましてこれは難しいです。

【市長】　何で難しいんですか。

【都市政策課長】　大規模開発住宅は郊外にはできないことに国の指導があり、そうなっております。ただし、個人で住宅を個別に建てるのは建築基準法に基づいて、都市整備部の建築指導課へ届出をしていただいて建築をしていただく。通常は専門の建築業者の方に依頼をして建てることになりますので、大規模なのは現在のところはできないことになっております。

【市長】　確かに難しいところですね。でも考え方としてはあると思いますので、宿題といいますか検討課題にさせてください。ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。

【女性】　失礼します。五明地区では山手の柳谷地区の区長をやっております。よろしくお願いします。先ほど産業廃棄物の話があったときに思ったんですけれども、うちの部落は山間部で１４軒しか家がないんです。その上はずっと山手になっていましてそこへ不法投棄かなり多いので今、地元の常会でけっこう話が出ているんですけれども、まちの入り口は道が１カ所なんです。そこへ防犯カメラ、録画できるものを置いてはどうかと。高齢化も進んでいますので人の目がないので知らない人がたくさん入ってくる状況がこの最近あって、盗難もあり防犯上のこともありますので助成いただいたら助かるかと思うんですけどもよろしくお願いします。

【環境政策課長】　環境政策課の大西です。不法投棄に関して大変ご迷惑かけていると思います。また場所を教えていただけたら、廃棄物対策課にこういう状況になっていると報告して、またこの後私も見させていただいて報告させていただけたらと思います。それともう１点、防犯カメラも場所を見させていただいてご相談いただけたら設置ができるか検討を前向きにさせていただきたいと思いますので、またこの後よろしくお願いします。もう１点先ほどの廃棄物処分場の件ですけど五明にもう一つ神次郎に民間の処分場がございます。ここの処分場には定期的に立ち入り調査、また放流水の水質調査を実施して監視しておりますので何か問題がありましたらまた指導もいたしますのでご理解いただけたらと思います。

【男性】　住宅の件については昨年も前のタウンミーティングのときにもお話が出て、その上で条件を二つ市長さんが出された。それを建てれば満杯になるということと、それと公平に誰が入るやらわからんということでしたので、なかなか我々としてもそれを望むことはまた難しい問題にもなってくるので、できれば何らかの形で協力的にできればと思って今日お話は出したんですけど、今後また検討していただければいいと思います。それと我々このまちづくりをやっている以上、先ほどもお話を出したように人を増やすと、人口を増やすことを一番に望む。その中でこの五明地区のどういうところに魅力があるとか良さがあるとかをまず知ってもらわないと人は寄ってこないと思いますので、まずどこからどういう人を寄せるかもいろいろ我々なりに考えたところがあるんですけど、それは今度新しに、まちづくりの役員に誰にも話をしてないので後で勝手なこと言うて叱られるかもわかりませんが、私としては一人でも今言ったように増やしたい。この五明地区を見ていただきたい気持ちを持ってお話をするんでこれも検討に入ると思いますが、トレイルランニングという山登りを競走して上がる話ですけど、これが全国的に流行ってきておりますので、愛媛県の中でも今治とか大洲、それから四国カルスト、あの辺りは今進行中らしいので我々も高縄山、大月山がありまして、この大月山には小学校の校歌にも入っとると思うんですが、大月山辺りまで野外センターから行けば大体５、６キロですけど、この辺から始まって高縄山に向けて継続していこうと考えておるんですが、この辺をお願いというのは整備なんですよね。暑い夏の盛りに草を刈らないかんということと、道路の舗装まではしなくていいんですけど、道路が傷んどるところを整備するとかをお願いしてこれから皆さんに道路を見てもらって大月山まで登ってもらう経験も必要かなと。それをすることによっていろいろ話を聞きますと大阪、東京あたりから何百人というグループがおるらしいので、どんどんもし来てもらえれば野外センターの活用にもなるし、この五明地区の良さも見てもらえるのかなと。今は全国的に誰がどこに行ってどうしたい、どう住みたいというのが今の時代だと思いますので、その辺も含めて一人でも仮に大阪じゃろが東京じゃろがこちらのいいところを見てもらって住んでいただける方向を願っておりますので、また考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【市長】　トレイルランニングですね。最近聞かれるようになってきました。登山とランニングを組み合わせた形ですね。山を走っていく形ですけれどもこれについては市民部長どうでしょうか。

【市民部長】　市民部の吉野です。よろしくお願いいたします。最近マラソンブームでもありますし、また登山ブームで走ったり登ったりとその両者の要素をあわせ持つトレイルランニングが知られるようになりまして、競技としてもいろいろ会長さんおっしゃったように実施されているようであります。この競技がまだ始まってそんなに時間がたっていないと思いますし、全国的にも普通のマラソンとか登山ほどはまだ知られていない段階で、今後いろいろ普及していく普及途上にあるんじゃないかと思いますし、今後このトレイルランニングを普及も含めて研究させていただきたい段階でございますので、何とぞご理解いただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

【市長】　私から追加で。これ市長が言ったからとやらないでください。地元の皆さんで研究していただいてやれるんだったらやろうでいいと思うんですけれども、前の仕事で２０年間それこそ愛媛、四国、九州、中国さまざま良いまちづくりを見せていただきました。それで比較的簡単に取り組めてみんなが喜ぶものは花なんじゃないかなと感じております。例えば大洲の五郎に河川敷に菜の花畑があり、また三間に行きますとチューリップがずっと並んでいるところがあったりとか。例えば春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスであったり春はチューリップであったり、そういう四季の花々を植える。うまくいけば休耕田とか耕作放棄地に植える。地元の人が協力してそういう広いところをつくることができたら人は来るなと感じております。人が来たところで物産品を売るとか、高齢化していても花ですから比較的軽いですから、農業の経験のある方もいらっしゃるので花は比較的取り組みやすいのかなとは感じておりますが、その土地で状況もありますので必ずできるかどうかはわかりませんのでまたご検討いただいて、やれるようだったらそういうまちづくりもあるよということでお話を申し上げた次第でございます。

【男性】　五明小学校の児童数を増やすのには旧川内町にいい例があると思います。井内ですが井内の小学校へ五明からも視察にも私らも行きました。児童数を増やすのにどんなことをしたかいうと、小学校の近くに住宅を建てたんです。２５軒ぐらいあると思いますが入所条件が若い人じゃないと入らさん、じいちゃんばあちゃんはあかんと。そうするとそこへ入ったら、下に高木いうとこがあるんですがそこらも宅地は買っとる家が建てなんだんじゃけど奥に建ったら下にも建ててね、そしてどんどん増えて井内は児童数今多いんです。私が車で走って数えるのに下から６０人ぐらい行きよると思います。そんなふうになりますからどうしても住宅を何とかして建てたい。学校の近くへなるべく建ててあげたら児童数は増えると思います。終わります。

【都市政策課長】　検討させていただくということで、先ほど言いました空き家対策の中で、新しく建てるのがなかなか難しい中で現在どういったところがあるかは、民間の方の力も借りて市としても検討してまいりたいと考えておりますので持ち帰らせていただいたらと思います。

【市長】　私も聞いてみたいですね。東温市の例も今言っていただいてそういう例もあったなと思いましたので、また松山市の民間の建設会社、住宅会社の方に聞いてみてどういう状況だというのも聞いてみたいと思います。ありがとうございます。

【男性】　言葉尻をとらまわるようで悪いんですけれども、先ほど大規模住宅の開発は今難しくなってるんだというお話だったんですが、どのあたりの線引きで大規模と呼ぶのか小規模ならできるのか、もう少し具体的にお願いできますか。

【都市政策課長】　手元に、基準、正式なところ持ってないのでまた改めてご報告させていただいたらと思うんですが。

【市長】　そうですね。５軒だったらいいのか１０軒だったらいいのか

１５軒だったらいいのか、これまた必ず１カ月を目途に地区にお答えを返させていただきますので、そのときに回答をご覧いただけたらと思います。すみません。

【男性】　先ほどの空き家という話、我々も考えとんですが、空き家の件ではこの五明地区の中で空き家は確かにあります。その１戸１戸あたると先日までじいさん、ばあさんがおった荷物が置いてあるから駄目だとか、またここはどうじゃろか思って見に行けば手を加えんと何万何百万の金を入れないと、住めない状態が非常に空き家といっても多いもので、なかなかそこから前進するというと行政にお願いせないかん話も出てくるので、我々も空き家についてはあんまり話したくないというか、話しても無駄かなと考えておるので、住める空き家があればいいんですけど調べるとそういう空き家しかないので、やはり新しいものをどっかに建てたいというのが強い要望なのでよろしくお願いします。

【市長】　これもう同じ悩みだと思います。今回このように意見交換をさせていただいたので、また一つ高みに登っていければなと思うんですが、島しょ部、中島で空き家何か活用できませんかねってお話をさせていただくんですが、例えば仏壇があってほかの人が住むには具合悪いとか、帰って来んかもしれんけど息子が帰ってきたときのために置いとってやりたいいう方もいらっしゃるし、なかなか空き家はあるんだけども、それをどうってのはなかなか難しいところですね、もう同じ悩みだと思います。今回住宅に関することをさまざまいただきましたので検討させていただきたいと思います。

【男性】　危険な空き家の解体基準とか、空き家持っとるんだけど経済的に解体ができないことがある家もあると思うんですけど、そのときの基準とかは市は考えていらっしゃるんでしょうか。お願いします。

【都市政策課長】　松山市内全体の中でも老朽危険家屋がございます。基準はこれだというのはないんですけれども通常、木造の建物でも非木造の建物でも耐用年数はありますけれども、特に老朽危険家屋といわれるものについて例えば道路上に倒れそうだとか、誰が見てもこれは危険だというものは都市整備部の建築指導課で対応をさせていただきます。ただ建物自体はそれぞれ個人の方が所有されております。それを市で直接というのはなかなか難しい状況です。市で所有者の方、近所の方に聞くとか、土地の登記簿とか建物の登記簿で調べて、ご連絡して対応をさせていただいているのが現状でございます。

【男性】　申請書を出したら見には来ていただけるということですか。

【都市政策課長】　そういうところがあるのをお知らせいただいたら、職員が現場も見るということでございます。

【市長】　ご遠慮なく言っていただいたらと思います。例えば道路で穴が最近できたとか、路肩が崩れとるよとかそういうことがありましたら先ほど申し上げたように地図持って来ておりますので、ここの道が危なそうな気がするんじゃけど見てくれまいか言っていただいたら松山市でも道路パトロールカーが３台おります。常に回っておりますけども、そういったもので確認もできますし早速今日いただいたら確認にもまいりますのでご遠慮なく言っていただいたらと思います。予定の９０分が来ようとしておりますのでこれを持ちまして終了にさせていただこうと思いますが、さまざまご意見いただきました。特にやはり家の問題ですね、これどうしていくのかはよくよく考えさせていただきたいと思います。私は常に皆様の声に耳を傾けていきたいと思います。それは私の原点だと思います。前の仕事２０年でやっぱり現地現場に出たからこそわかったことがあります。現地現場だからこそわかる知恵があったり苦労があったり工夫があったりアイデアがあったり。そういったものを私は教えていただきました。現地現場に出続けることが私の原点ではないかなと思います。誠実に皆様の声に耳を傾けてそして誠実に取り組んでいく、そういった誠で治める政治ができればと思っております。また市役所って書きますけども、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければならないと思っています。どうせ市役所に言うたって何も変わらんのやと思わずに、遠慮なく相談していただいたら、「いやちょっとこういうやり方は実はできないんですけど、こういうやり方だったらできますよ」とかそういう考えもお伝えすることもできますので、どうぞ敷居を高くなさらずに遠慮なく相談していただいたらと思います。もし、ちょっと市長これ失礼じゃないんこの態度はとか、そういう職員がおりましたら市長へのわがまちメールという直接のメール制度も構えておりますので、私に直接メールをしていただいたら怒るようなことがあってはいかんのですけども、そういうこともできますので遠慮なく。敷居を低くしていきたい、皆さんと行政の距離を近くしたいのが私の思いでありますので、これからも遠慮なくさまざま言っていただいたらと思います。今日は長時間にわたりさまざまご意見いただきましてありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

―　了　―